

# 琉球大学学術リポジトリ

## 琉球大学々生の体格について

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部 公開日: 2011-04-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 琉球大学教育学部体育研究室, Physical Education Department メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/19307">http://hdl.handle.net/20.500.12000/19307</a>

# 琉球大学々生の体格について

琉球大学教育学部体育研究室 (註1)

## I 調査目的

本学々生の最近5ケ年における身体発育の状況について、総合的に考察し、学生の健康管理ならびに保健・体育指導の基礎資料にする。

## II 調査方法

### (1) 調査項目と標本

身長・体重・胸囲・座高の四項目について本学々生の全員を対象として、1955年～1959年の5ケ年に亘り調査したもので、各年次における標本数は、Table 1 の通りである。この標本は一週間の検査期間に完了したものを対象にしたもので自後の受検者は之を除外した。

Table 1 年次別 調査人員

年 度	性 区分	男			女		
		在 籍	検査人員	百分比	在 籍	検査人員	百分比
1955		1120	819	73.1	365	332	91.2
1957		1447	1071	74.0	471	412	90.7
1958		1501	1207	80.4	510	429	84.1
1959		1605	1309	81.6	547	515	94.2

### (2) 調査実施の時期

本資料は定期身体検査において得られたものである。身体計測の正確性を期するため体育科全教官と体育科三・四年次学生の協力により実施された。検査の時期は学年暦によつて、三月下旬に新入学生二日、二年次以上五日間の日程で実施された。

## III 結果と考察

本学々生の身長・体重・胸囲・座高の代表値としての算術平均値および標準偏差を求めた。Table 2～Table 5 がそれである。また、各年次(註2)の発育比較を容易ならし

註1) 本稿の文責はすべて新里が負うものである。

註2) 1956年度は同年9月の火災で全資料を焼失したのでこれを欠く。

めるため図表にして示したが、Fig. 1～Fig. 8 である。

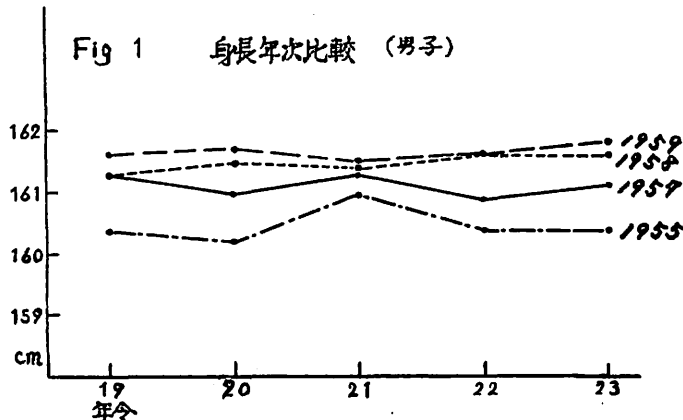
なお、本土の学生との比較観察を便ならしめるため末尾に Teabl 7 を添付した。これはすべて、文部省発行の指定統計第15号・学校衛生統計報告書（昭和32年度）から得たものである。以上の各資料について二・三の考察を試みることにする。

### (1) 身長

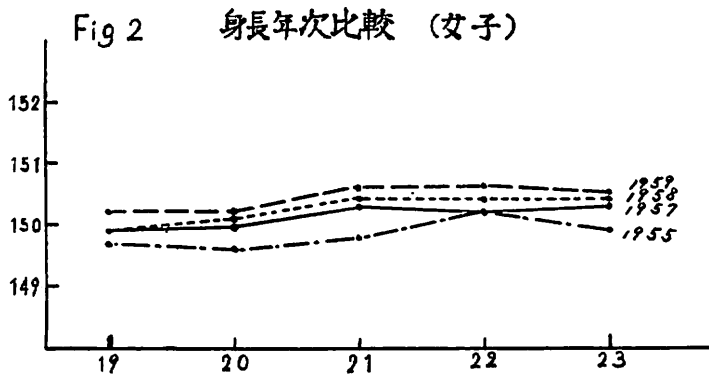
Table 2 および Fig. 1・2 によつて、本学々生の身長は、各年令とも僅少ながら逐年増加の傾向にあるが将来も改善されていくものと推定される。

Table 2 身長 の 平均 値 ・ 標 準 偏 差

年次	性		男									
	年令	区分	19		20		21		22		23	
			M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD
1955			160.4	4.6	160.2	5.1	161.0	4.8	160.4	4.8	160.4	4.8
1957			161.3	5.1	161.0	5.1	161.3	4.8	160.9	5.0	161.1	5.0
1958			161.5	6.0	161.5	4.9	161.6	5.0	161.6	5.0	161.6	5.1
1959			161.6	4.8	161.7	4.8	161.6	5.1	161.6	5.1	161.8	5.3
			女									
1955			149.7	4.6	149.6	4.8	149.8	4.5	150.2	3.9	149.9	2.4
1957			149.9	4.8	150.0	4.5	150.3	5.1	150.2	4.6	151.3	3.5
1958			149.9	3.7	150.1	4.5	150.4	4.3	150.4	5.3	150.4	5.2
1959			150.2	4.3	150.3	4.0	150.6	4.6	150.5	4.3	150.0	6.0



すなわち、1955年以降5ヶ年間に、男子は1.2cm、女子は0.5cmの増加を示している。しかし、大学の学生は、年令的には、男女ともいわゆる発育完成期にあるため、身



長の増加速度は、年令の進むにしたがつて小さくなるのが一般的傾向とおもわれるが、本学の学生については、一部の例外を除いて必ずしもそうではない。その原因については、知ることはできないが他日考究されるべき問題の一つであらう。

次に、本土の学生との比較をみると、Table 7 にみるように、男子では4.4cm、女子では4.2cmと、いずれの年令層にあつても、本学の学生は著しく劣っている。

1959年における本学々生の男子の平均身長は161.7cmであるが、この数値は、明治35年以降47ヶ年間の学徒の発育累年比較(註3)によると、明治末期から大正初期にかけての、学生のそれとほぼ同位にあることは注目されよう。

以上は、本学々生と本土の学生との比較観察であるが、このような身長差は、たゞ大学の学生だけに限らず、沖縄の児童・生徒の場合でも同様なことがいえる。(註4)

戦前沖縄出身の壮丁の平均身長は、陸軍省発表の資料(註5)によると、156.1cmであるが、これを本学の学生と比較すると5.6cmの差が認められる。本学々生と戦前の壮丁とを対比して考察することは、合理的でないにしても、一応戦前戦後の沖縄の青少年の体格の変遷の一端を知る手がかりにはなろう。

さて、このようにみえてくると、結局本学の学生はもちろん、沖縄の青少年は、長育を規制するいろいろの因子の影響を受けて「短軀」という本土の府県の中で一種特有の身体形成をしているものと考えられるが、これについては、今後あらゆる方面から、総合的な研究がなされるべきであらう。

註3) 文部省・指定統計第15号昭和32年度学校衛生統計報告書。

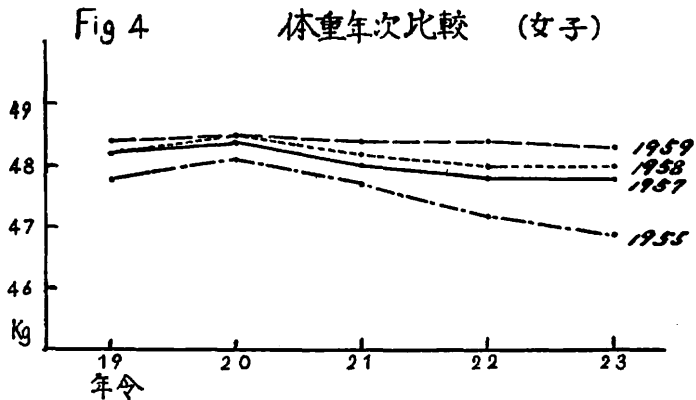
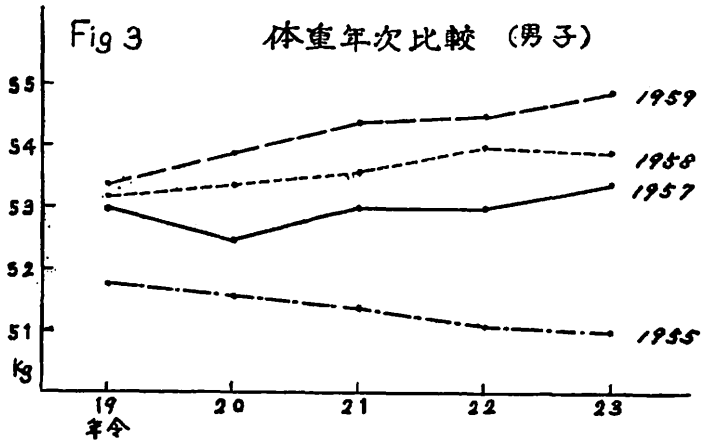
註4) 琉球政府文教局・1958年度学校衛生統計報告書。

註5) 鈴木慎次郎著 体力測定法 所載「府県別壮丁身長」陸軍省発表

(2) 体 重

Table 3 体 重 の 平 均 値 ・ 標 準 偏 差

年次	性 年令 区分	男									
		19		20		21		22		23	
		M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD
1955		51.8	4.7	51.6	5.2	51.4	4.8	51.1	4.4	51.0	4.4
1957		53.0	5.5	52.5	5.0	53.0	4.9	53.0	5.3	53.4	5.1
1958		53.2	5.6	53.4	5.5	53.6	5.0	54.0	5.4	53.9	5.1
1959		53.4	4.6	53.9	5.4	54.3	5.4	54.5	5.4	54.9	5.2
		女									
1955		47.8	4.4	48.1	5.3	47.7	4.3	47.2	4.8	46.9	3.0
1957		48.2	5.7	48.4	4.8	48.0	4.7	47.8	5.5	47.8	5.1
1958		48.2	5.3	48.5	5.4	48.2	5.5	48.0	5.2	48.0	5.3
1959		48.4	5.0	48.5	5.0	48.4	5.5	48.4	5.6	48.3	4.8



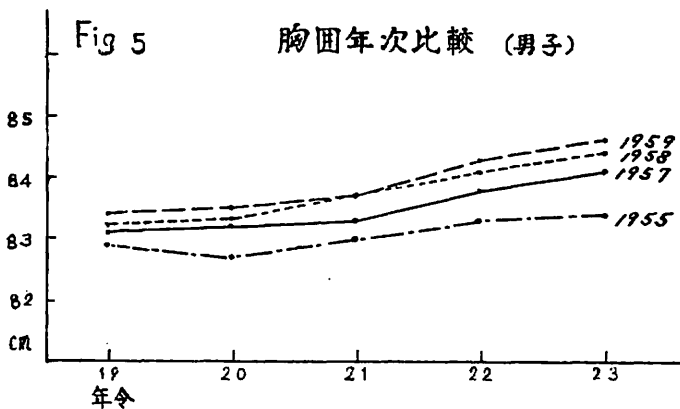
1959年の本学々生の体重は、1955年に比べると、男子では2.7kg、女子では0.9kgの増加を示してをり、逐年向上するものと推定されるが、しかし、本土の学生との比較をみると、Table 7 に示すように、本学々生は、男子は2.4kg、女子は1.3kgも劣つてをり年齢が進むにしたがつて、その差は小さくなつてゐる。

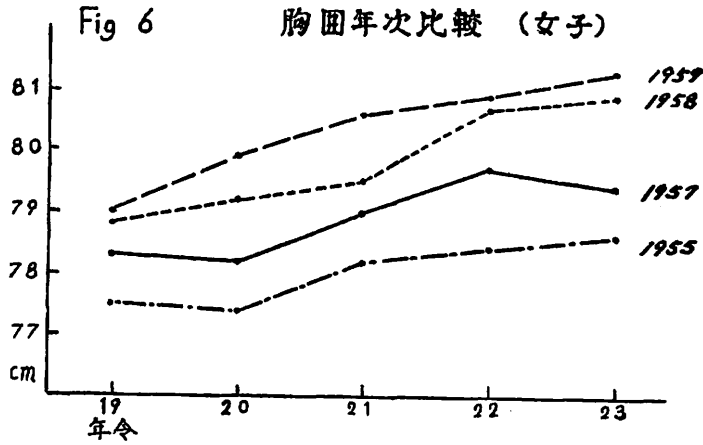
(3) 胸 囲

1955年と1959年とを比較すると男子が0.8cm、女子が2.1cmの増加を示してをり、年齢とともに、増加速度は大きくなつてをり、今後も向上するものと推定される。

Table 4 胸 囲 の 平 均 値 ・ 標 準 偏 差

年 次	性		男									
	年 令	区 分	19		20		21		22		23	
			M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD
1955			82.9	3.4	82.7	4.1	83.0	3.8	83.3	3.9	83.4	4.1
1957			83.1	3.8	83.2	3.9	83.3	3.6	83.8	4.0	84.1	3.8
1958			83.2	4.2	83.3	3.9	83.5	3.5	84.1	3.7	84.4	3.9
1959			83.4	3.4	83.5	3.9	83.5	4.0	84.3	3.9	84.6	3.8
			女									
1955			77.5	3.9	77.4	4.1	78.2	4.0	78.4	4.4	78.6	3.0
1957			78.3	4.5	78.2	4.2	79.0	4.1	79.7	4.3	79.4	4.5
1958			78.8	4.7	79.2	4.1	79.5	4.4	80.7	4.2	80.9	4.3
1959			79.0	4.2	79.9	4.2	80.6	4.1	80.9	4.1	81.3	3.6





本土の学生と対比すると、本学の学生は、男子が0.8cm、女子が0.5cm劣つているがしかし、女子の22・23才ではむしろ本学々生が、0.3cmも優位にあることは注目されよう。

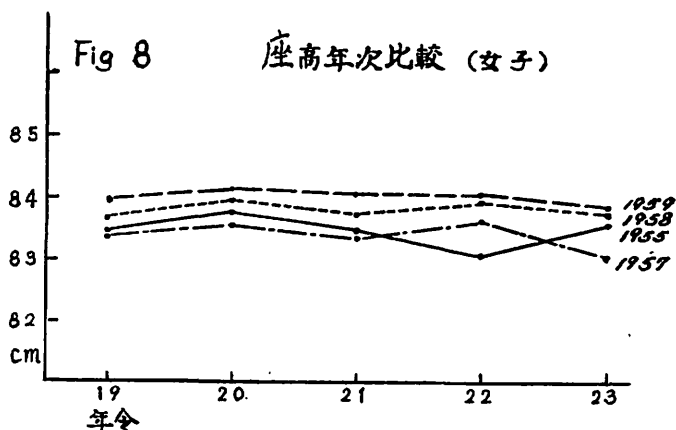
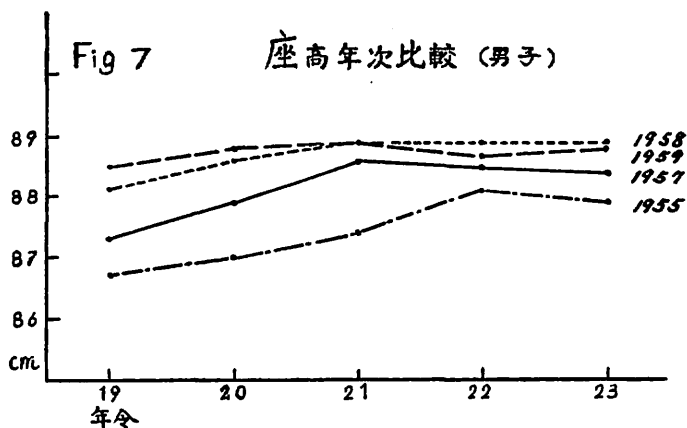
この現象は、沖縄人の体型決定に大きな影響を与えているものと思われるので、今後の経年的な調査研究がのぞましい。

(4) 座 高

座高についても、前に述べた各測度と同様年次的には、僅少なながらも増加の傾向にある。1959年までの5ヶ年間に男子1.4cm、女子0.6cmの増加を示しているが、本土の学生に比べると、著しい差は認められないにしても、男子は1.6cm、女子は0.2cm小さく女子の場合に殆んど同列にある。

Table 5 座高の平均値・標準偏差

年次	性		男									
	年令区分		19		20		21		22		23	
			M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD
1955			86.7	2.8	87.0	3.0	87.4	2.6	88.1	2.9	87.9	2.3
1957			87.3	2.6	87.9	2.6	88.6	2.7	88.5	2.6	88.8	2.8
1958			88.1	2.9	88.6	2.5	89.0	2.7	89.0	2.8	88.9	2.7
1959			88.5	2.6	88.8	2.6	88.9	2.5	88.9	2.6	88.8	2.9
			女									
1955			83.4	2.6	83.6	2.3	83.4	2.2	83.7	2.8	83.1	1.6
1957			83.5	2.7	83.8	2.3	83.5	2.6	83.1	2.6	83.6	3.5
1958			83.7	2.4	84.0	2.4	83.8	2.2	84.0	2.9	83.8	2.9
1959			83.9	2.5	84.2	2.4	84.1	2.6	84.1	2.5	83.9	3.2



ところが、ここで興味あることは、Table 2に示した身長から、Table 4の座高を差し引いて、下肢の長さを算出したのがTable 6であるが、これによつて、本土の学生と比較して、沖縄人特有の体型を見のがすことはできない。

Table 6 年齢別下肢の長さの比較 (下肢の長さ=身長-座高)

区分	性 年齢	男					女				
		19	20	21	22	23	19	20	21	22	23
本土大学		75.4	75.5	75.7	75.9	76.3	70.3	70.4	70.5	70.3	70.3
琉球大学		73.1	72.9	72.7	72.7	73.0	66.3	66.1	66.5	66.4	66.1
増減		2.3	2.6	3.0	3.2	3.3	4.0	4.3	4.0	3.9	3.2

Table 6 でみるように、同じ方法で算出した本土学生の下肢の長さとして、本土の学生とそれとを比較すると、男子では3.0cm、女子では4.0cmも小さい。このように、男子はともかく、本学的女子学生の下肢が、本土の学生よりも4.0cmも小さいということ



は、沖縄女性の典型的な体型を数的に表わしているといえよう。

ここでも亦、沖縄人が、本土の府県の中で一種特有の体型を備え、人類学的な多くの課題が残されている感がすると同時に、あらゆる分野を動員して、今後の継続的な資料の蒐集と研究調査の必要が痛感される。

なお、今回は下肢長の計測法による計測はできなかつたが、今後はこの面の研究も必要である。

Table 7 本土の大学学生との発育比較

区分	性 年齢	男					女				
		19	20	21	22	23	19	20	21	22	23
身長	本土大学	165.8	166.0	166.1	166.2	166.4	154.6	154.6	154.7	154.5	154.3
	琉球大学	161.6	161.7	161.6	161.6	161.8	150.2	150.3	150.6	150.5	150.0
	増減	4.2	4.3	4.6	4.6	4.6	4.4	4.3	4.1	4.0	4.3
体重	本土大学	56.5	56.7	56.6	56.6	56.3	50.2	50.0	49.8	49.3	49.1
	琉球大学	53.4	53.9	54.3	54.5	54.4	48.4	48.5	48.5	48.4	48.3
	増減	3.1	2.8	2.3	2.1	1.9	1.8	1.5	1.4	0.9	0.8
胸囲	本土大学	84.4	84.5	84.7	84.8	84.7	80.9	81.0	80.8	80.6	81.0
	琉球大学	83.4	83.5	83.5	84.3	84.6	79.0	79.9	80.6	80.9	81.3
	増減	1.0	1.0	1.2	0.5	0.1	1.9	1.1	0.2	+0.3	+0.3
座高	本土大学	90.4	90.5	90.4	90.3	90.1	84.3	84.2	84.2	84.2	84.0
	琉球大学	88.5	88.8	88.9	88.9	88.8	83.9	84.2	84.1	84.1	83.9
	増減	1.9	1.7	1.9	1.4	1.3	0.4	0	0.1	0.2	0.2

各項目の数値は本土は1959年・琉球大学は1957年の平均値である

#### IV 要 約

本調査は、本学々生の最近5ヶ年間に於ける身体発育の実態を総合的に考察し、学生指導の参考資料を得るため、1955年～1959年の5ヶ年に亘り、身長・体重・胸囲・座高について、定期的に測定した資料について、考察を加えた。これを総括して示せば次の通りである。

- 1 身長は男女とも逐年増加の傾向がみられるが、本土の学生と比較すると、いづれも著しく劣っている。
- 2 体重は男女とも逐年増加の傾向がみられる。
- 3 胸囲においては、本土に比べて男女とも殆んど差がみられないが、むしろ、女子においては本土が優位にある。
- 4 座高についても、本土との差はみられない。
- 5 要するに、本学々生の体格は、明らかに農村型の発育過程を示している。特に女子学生については、典型的な沖縄女性の体型といわれる長脚短脚である。

#### 参 考 文 献

1. 文部省 学校衛生統計報告書 1957
2. 文部省 健康と体力 1960
3. 鈴木慎次郎 体力測定法 1949
4. 日本体育学会 体育学研究 Vol.4 No.1 1959

## PHYSICAL MEASUREMENTS OF THE UNIVERSITY OF THE RYUKYUS STUDENTS

Physical Education Department  
The University of the Ryukyus

### ABSTRACT

The data of this report include the measurements of four physical dimensions, height, weight, chest circumference and sitting height, of the University of the Ryukyus students enrolled during five years between 1955 and 1959. Following observations were made from the data:

1. Both men and women show a tendency to become taller, but in comparison with their Japanese counterparts both sexes are markedly shorter.
2. Both sexes tend to become heavier.
3. In chest circumference both sexes show practically no differences when compared with their Japanese counterparts. In the case of the women the University of the Ryukyus students appear even to be slightly larger.
5. In sitting height there are no differences between Okinawan and Japanese youths.

In short, the physical development of the University of the Ryukyus students shows a developmental pattern similar to that of the farm youth. In the case of women, they show clearly a type with a long trunk and short legs which has been regarded to be the typical anatomical type of Okinawan females.